

平成30年度第2回教育課程編成委員会 記録

日時：平成30年10月12日（金）14:00～15:30

場所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館2階会議室

委員：小川英彦(愛知教育大学教授 有識者委員)、

高田道雄(マハヤナ幼稚園長 保育科第二部企業等委員)、

鎌倉 博(名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園長 保育科企業等委員)、

水越省三(愛知県私立幼稚園連盟理事 業界団体委員)、

武石協子(社会福祉法人NUAたきこ幼児園長 保育科企業等委員)

藤澤卓美(校長)、 杉浦宏幸(副校長)、 木村節治(保育科長)、 加藤由美(教学主任)

議長：藤澤校長 (記録：杉浦宏幸) (敬称略)

1 開会のあいさつ

副校長から開会の挨拶と出席者へのお礼がされた。

2 校長あいさつ

校長から出席者への挨拶後、職業実践専門課程の取り組み、再指定申請をして、その指摘事項に関する修正中であること、職業大学への申請状況の説明があった。

3 本校の概要

- (1) 2019年度教育理念・教育目標・求める学生像・めざす学生像等の学生便覧1頁に関する記載内容について、カリキュラムポリシー的な内容事項の追加をする提案が資料1に基づき副校長からあった。さらに、記載順の入れ替え、一部文言の修正の提案もあった。「5 本学のカリキュラムの基本」を新規に記載するとして、4項目が提案された。
- (2) 平成30年度職業実践専門課程の基本情報(昼間部、第二部)情報公開データについて資料2に基づいて副校長から説明があった。就職等の状況、中途退学者の現状、経済的支援制度等について詳しく説明された。その中で、課題として、第三者による学校評価の実施が課題となっていることの説明があった。さらに、専攻分野に関する企業、団体等との連携の基本方針、教育課程編成委員会に関わる内容、教育課程編成委員会活用状況については、これまでの会議開催状況について説明があった。企業と連携しての研修については、これまで実施した研究会の内容・講師の説明があった。学校関係者評価に関わることについても、評価結果の活用状況の報告があった。
- (3) 職業実践専門課程の成果については、プレ教育実習では、実施計画、事前事後指導の実施計画、学生がプレ実習から学んだことの説明が資料3に基づいて、副校長よりあった。学生の学びの分析として、8項目に分類されること、子ども理解に関わる学びの割合が高いことの報告があった。教育実習I(滝子幼稚園)については、実施計画、実施日程と実習内容、事前事後指導の実施計画と内容について説明があった。学生が教育実習から学んだことをまとめると10項目あり、中でも保育者の援助に関わる内容

の割合が高いことの説明があった。プレ実習と教育実習Ⅰの学生の学びを比較すると、子ども理解から保育者の援助へと変容していることが分かるとの説明があった。校長からの補足説明として、プレ実習では、教えるというのではなく、実習から学生が気づいたことをグループで話し合わせていくことに重点をおいて指導していることの説明があった。

- (4) 平成 31 年度のカリキュラム案について資料 4 に基づいて副校長より説明があった。現在、文部科学省へ申請中であり、1 科目のみ科目名の変更をするよう指摘があった。その科目名を変更して再度申請中であることの説明があった。さらに、34 年度まで小学校の教科が認められているが、本校では、5 領域に関わる内容に変更して行うこと、学校独自の科目を 8 科目設定することの説明があった。木村保育科長が補説として、全体として 2 単位これまでよりも増加していることの説明があった。
- (5) 平成 31 年度の学生募集状況について、資料 5 に基づいて、副校長から説明があった。オープンキャンパスの参加状況については、過去の年度との比較、社会人への対応策、来校者の出願割合の説明があった。高校生、社会人の参加をさせることを第一に考えていくことが大切であることの説明があった。
- (6) 学生による授業評価の 30 年前期結果について、資料 6 に基づいて、副校長から説明があった。23 年度からの実施状況結果との比較として、過去の最高値に近づきつつあること、問 3 以降の教師の授業改善が進んでいることの説明があった。また、これまで調査をしていた問 13 については、委員さんからの指摘を受けていたため、今回の調査から実施しないこととした旨の報告があった。

4. 協議（説明に関する質疑・ご意見）

校長・プレ実習の補足説明をする。5 月からのプレ実習は単位には認められていない。実習で必要な科目単位が取れていないからである。学年の人数を半分に分けて、2 グループ作り実施している。ここでは、教える形ではなく学生の「気づき」をグループで話し合い、学んだことをまとめていく形で 4 回実施している。学生の気づきをまとめていくと、教師が教えたいと思っている内容が全て含まれている。教師が教えると言うよりも学生の主体的な学びを大切に進めてきた。学生の気づきからスタートしたことの成果はあったと感じている。

委員・プレ実習での学びが、めざす学生像（卒業時）の姿に当てはまってきているように感じている。

校長・基本的には幼稚園（保育所）でのプレ保育実習も同様の流れで実習を進めている。

委員・現場で求める学生像、人間像をどのように育成しているのか。

校長・本学の学生は、実習訪問等で伺った折、多くの園から「学生が子どもとの関係づくりがスムーズにできている」と伺う。このことは、プレ実習を行っているからであると思っている。これもプレ実習の成果である。

委員・滝子幼稚園のプレ実習で、学生がゼロからスタートする。ここでの学びが、人とし

て何が大切であるかが明確になってきているからだと思う。学生はプレ実習から知識、技能、人間力を学んでいるからではないかと思う。

校長・授業科目の教職概論の1時間目に「どんな保育士になりたいか」を問い、今後の授業、実習の中で常に問い続けていくようにしている。このことは、就職試験にも最終的に問われることなどで、2年間意識して学びを深めていけるように考えていきたい。

委員・保育士は、子どもへの指導・支援の力を伸ばしていくことは当然である。さらに、保護者への対応能力も必要であり、この対処の仕方をどのように身に付けさせているのか。

校長・まずは、保護者の言うことに耳を傾けること。保護者が何を訴えたいのかを聞いて理解することが第一であると考え、学生に指導をしている。

委員・本校を卒業して5年目になる保育者が本園にいる。この保育士は、保護者の信頼を得て、本園の顔になりつつある。

委員・学生による授業評価が高いので、学生が授業に満足していることがうかがえる。滝子幼稚園教育実習Ⅰで学んだことを読んでみると、講義では学ぶことができないことを実習から学んでいることがよく分かる。専門学校から芸大へ編入してくる学生から分かることは、学ぶ姿がはっきりとしていることである。現在、編入した学生は実習をしているが、実習先の先生からの評判はよい。

校長・大学と取得単位に関わる話し合いを進め、取得単位が認められるよう調整を進めていく。向上心のある学生を支援していきたい。

委員・いくつかの観点で発言をしたい。

- ①プレ実習の意義が学生の学びから分かる。
- ②音美体の本学の学びの特色をポリシーに位置づけていきたい。
- ③現場で必要な力である表現する力を身につけさせていくカリキュラム編成をしていく。
- ④特別支援教育（配慮を要する子ども）への対応力を卒業時の姿の中に入れていくようにしたい。
- ⑤ミニオープンキャンパスを開催する必要性はある。
- ⑥社会人向けのピアールをホームページ等で工夫していくことが大切である。
- ⑦大学へ編入できることは、本学の売りとなる。

校長・②③④については、本校のめざす教育の中に位置づけていくように検討していく。文化学園も本学の大学へ編入できるように検討を進めている。さらに深く学んでいく問題意識の高い学生への対応をしていく。最終的には、専門学校としての道を充実させていく。

委員・専門学校から大学への編入できるという流れも明確に位置づけていくようにしたい。

副校長・多くの貴重なご意見をいただきました。職員で検討して、いただいた内容が反映できるように考えていく。本日はありがとうございました。